

テーマ	数学教育の内容・領域に固有な非認知的能力に対する教師による評価
発表者	宮崎樹夫（信州大学）、榎本哲士（北海道教育大学）、中川裕之（大分大学）、佐々祐之（北海道教育大学）、茅野公穂（信州大学）、宮川健（早稲田大学）、山崎美穂（帝京大学）、吉川厚（東京工業大学）、岩田耕司（福岡教育大学）、青山和裕（愛知教育大学）、永田潤一郎（文教大学）、清水静海（帝京大学）、岩永恭雄（信州大学）
趣旨及び概要	<p>労働経済学では社会的生産性向上の要因として非認知能力育成の重要性が指摘されている。我が国の教育では認知能力と非認知能力をバランスよく育成することが意図されているものの、評価については認知能力偏重の現状にあると言わざるを得ない。この学力観を変革するため、教育の内容・領域で育成される非認知能力に対する教師による評価のエビデンスベースな解明が求められている。そこで、本研究は、数学教育の内容・領域に固有な非認知能力に対する教師による評価について、特に算数科及びその領域に焦点を当てる。</p> <p>今回は、次のリサーチクエッションに答える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●算数科に固有な非認知能力に関する教師による評価について、なぜ/どのように考察するのか。</li><li>●算数科の領域「数と計算」で育成される非認知能力の評価には、どのような特徴があるか。</li><li>●算数科の領域「図形」で育成される非認知能力の評価には、どのような特徴があるか。</li><li>●算数科の領域「関数」で育成される非認知能力の評価には、どのような特徴があるか。</li></ul> <p>算数科の領域「データの活用」で育成される非認知能力の評価には、どのような特徴があるか。</p>